富士市富士山火山防災マップ

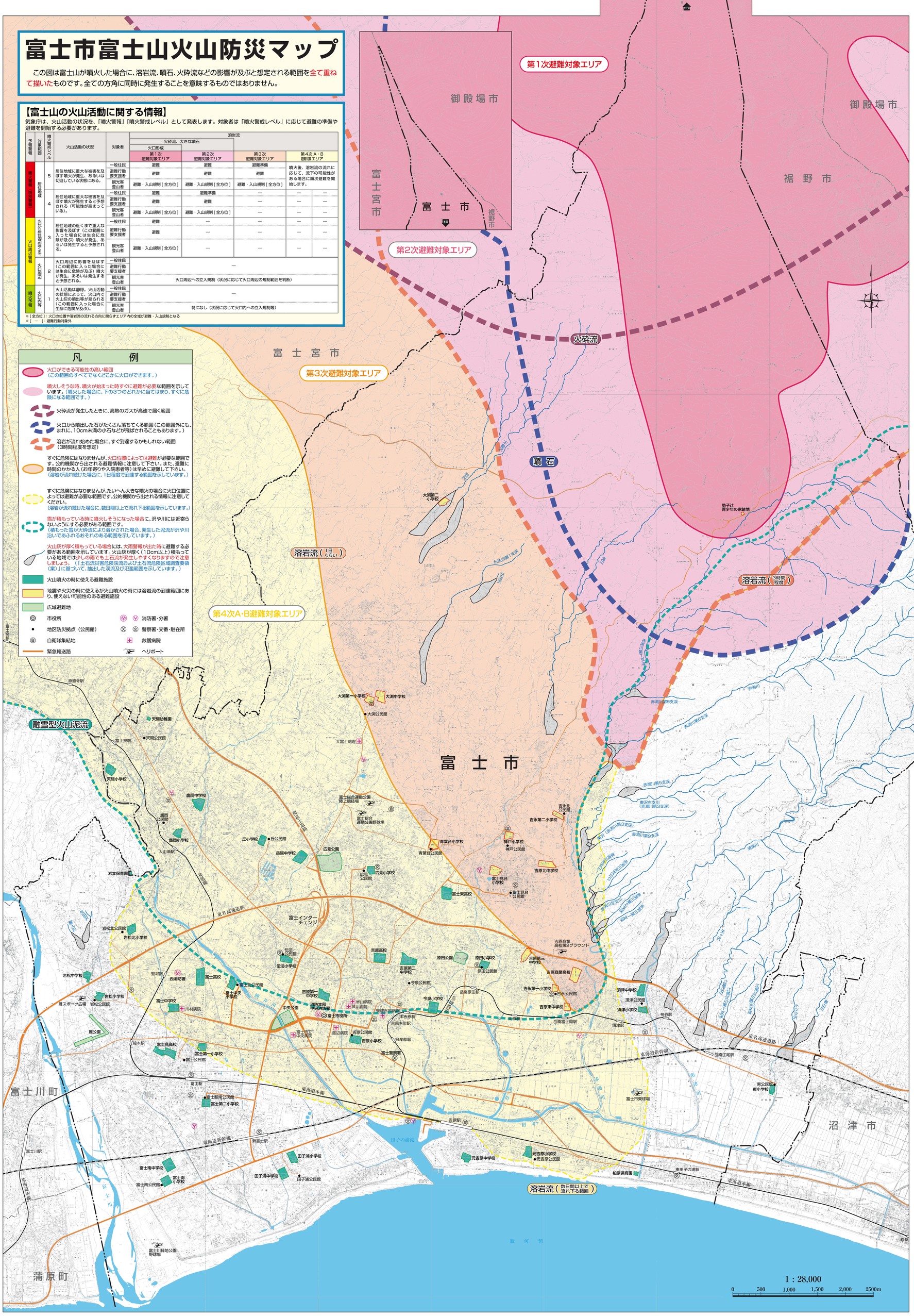
この図は富士山が噴火した場合に、溶岩流、噴石、火砕流などの影響が及ぶと想定される範囲を全て重ねて描いたものです。全ての方角に同時に発生することを意味するものではありません。

【富士山の火山活動に関する情報】

気象庁は、火山活動の状況を、「噴火警報」「噴火警戒レベル」として発表します。対象者は「噴火警戒レベル」に応じて避難の準備や避難を開始する必要があります。

予報警報	対象範囲	噴火警戒レベル	火山活動の状況	対象者	火砕流、大きな噴石 火口形成 第1次 避難対象エリア	火砕流、大きな噴石 第2次 避難対象エリア	溶岩流 第3次 避難対象エリア	溶岩流 第4次A・B 避難対象エリア
噴火警報（居住地域）	居住地域	5	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	一般住民	避難	避難	避難準備	噴火後、溶岩流の流れに応じて、流下の可能性がある場合に順次避難を開始します。
				避難行動要支援者	避難	避難	避難	
				観光客登山者	避難・入山規制［全方位］	避難・入山規制［全方位］	避難・入山規制［全方位］	
		4	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	一般住民	避難	避難準備	—	— / —
				避難行動要支援者	避難	避難	—	— / —
				観光客登山者	避難・入山規制［全方位］	避難・入山規制［全方位］	—	— / —
火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	一般住民	避難	—	—	— / —
				避難行動要支援者	避難	—	—	— / —
				観光客登山者	避難・入山規制［全方位］	—	—	— / —
	火口周辺	2	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	一般住民	—			
				避難行動要支援者				
				観光客登山者	火口周辺への立入規制（状況に応じて火口周辺の規制範囲を判断）			
噴火予報	火口内等	1	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合に生命に危険が及ぶ）。	一般住民	—			
				避難行動要支援者				
				観光客登山者	特になし（状況に応じて火口内への立入規制等）			

※［全方位］：火口の位置や溶岩流の流れる方向に関らずエリア内の全域が避難・入山規制となる
※［ — ］：避難行動対象外

凡例

- 火口ができる可能性の高い範囲（この範囲のすべてでなくどこかに火口ができます。）
- 噴火しそうな時、噴火が始まった時すぐに避難が必要な範囲を示しています。（噴火した場合に、下の3つのどれかに当てはまり、すぐに危険になる範囲です。）
- 火砕流が発生したときに、高熱のガスが高速で届く範囲
- 火口から噴出した石がたくさん落ちてくる範囲（この範囲外にも、まれに、10cm未満の小石などが飛ばされることもあります。）
- 溶岩が流れ始めた場合に、すぐ到達するかもしれない範囲（3時間程度を想定）
- すぐに危険にはなりませんが、火口位置によっては避難が必要な範囲です。公的機関から出される避難情報に注意して下さい。また、避難に時間のかかる人（お年寄りや入院患者等）は早めに避難して下さい。（溶岩が流れ続けた場合に、1日程度で到達する範囲を示しています。）
- すぐに危険にはなりませんが、たいへん大きな噴火の場合に火口位置によっては避難が必要な範囲です。公的機関から出される情報に注意してください。（溶岩が流れ続けた場合に、数日間以上で流れ下る範囲を示しています。）
- 雪が積もっている時に噴火しそうになった場合に、沢や川には近寄らないようにする必要がある範囲です。（積もった雪が火砕流により溶かされた場合、発生した泥流が沢や川沿いであふれるおそれのある範囲を示しています。）
- 火山灰が厚く積もっている場合には、大雨警報が出た時に避難する必要がある範囲を示しています。火山灰が厚く（10cm以上）積もっている地域では少しの雨でも土石流が発生しやすくなりますので注意しましょう。（「土石流災害危険渓流および土石流危険区域調査要領（案）」に基づいて、抽出した渓流及び氾濫範囲を示しています。）
- 火山噴火の時に使える避難施設
- 地震や火災の時に使えるが火山噴火の時には溶岩流の到達範囲にあり、使えない可能性のある避難施設
- 広域避難地
- 市役所
- 地区防災拠点（公民館）
- 自衛隊集結地
- 緊急輸送路
- 消防署・分署
- 警察署・交番・駐在所
- 救護病院
- ヘリポート